

令和2年度第2回東海村（仮称）歴史と未来の交流館展示監修委員会 会議録

| | |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 日時 | 令和2年12月3日（木）13:30～15:30 |
| 2. 場所 | 東海村役場 原子力視察研修室 |
| 3. 出席者 | 高橋修委員長，塩谷修副委員長，菊池芳文委員，安嶋隆委員，宮内教男委員，高橋裕文委員，萩谷信輝委員，林圭史委員，小野寺淳委員，宮田裕紀枝委員，益子美由希委員 |
| 4. 欠席者 | 高橋裕文委員，瓦吹堅委員，佐々木啓委員 |
| 5. 議題 | (1) 展示パネルレギュレーション（案）について (2) 展示室1の展示制作物について ①歴史BOXについて ②生き物マグネットについて (3) 展示室2の展示制作物について ①各ストーリーの展示パネルについて ②年表について (4) 今後の進め方について |

主な発言内容

【●：展示監修委員 ○：事務局】

(1) 展示パネルレギュレーション（案）について

●英語表記について、これから外国人観光客が増えてくることが考えられる。その時、学芸員が英語対応することは難しいと考える。翻訳アプリなどを使った展示を行うなど、柔軟化が求められると思うので、検討してほしい。

○検討する。

●遺跡名や地名はその土地の人でないと読むのが難しいと感じる。ルビをふってはどうか。

●専門用語と定める中にどれだけの範囲の言葉を含むかにもよるのではないか。例えば人名は機械的にルビを振るのか。

○機械的に入れるならすべてにルビを振るか、またはこちら側で主観的に難読だと判断したものについてのみルビを振るかという形になる。

●後者の意見に賛成する。あまりあちこちにルビを振っていると、利用者側としては見づらい。必要最小限度にとどめるのが良いと考える。

○それでは、事務局で難読と判断したものについてのみルビを振る。

●レギュレーション案には「適宜ルビを振る」とあるのでそれでよいのではないか。レギュレーションですべての表記を定めるのは不可能なので、ある程度のガイドラインとしてはこれでよい。特に意見がなければこの案を承認する。

(2) 展示室1の展示制作物について

①歴史BOXについて

●文章や絵などについては今後も調整するとして、レイアウトや方向性を確認すればよいか。

○そうである。

●壁面のイラストについて、小学生などは主だった建物などランドマークがあると自分たちの住

んでいる場所を把握しやすい。公共施設や目印になる施設などを際立たせて描いてはどうか。

- イラストにランドマークを入れる件は事務局で検討してほしい。ほかに歴史 BOX について、意見等あるか。
- 技術的なことだが、冬の海岸 BOX の写真について、流木を消せないか。
- 検討する。
- 砂防林の側面について、タイトルを現在の砂防林とするのか、資料通りのタイトルにするのか。現在の写真でないため、違和感がある。
- 現在の砂防林はマツクイムシ被害を受けており、この写真は現状とそぐわないため、タイトルは現在の砂防林とするのではなく資料通りにする。
- 昭和 50 年ごろの砂防林であると思うが、資料のタイトルの通り原子力機構から河田博士に送られた写真であるということが重要なのか。
- そうである。原子力機構から感謝の思いを河田家に送ったという意味で重要である。
- このキャプションと写真だけではそこまで読み取るのは難しい。昭和 52 年の砂防林というタイトルにして、つけたければキャプションをつければよい。検討してほしい。
- 歴史 BOX 側面などに貼る写真は、これからまた取捨選択するのか。資料では同じ写真が何か所かに使われているが、そのような写真は変えたほうが良いと考える。また、台地の BOX に設置する干し芋づくりの写真について、ビニールハウスの中に干し芋がある様子が使われているが、近年では機械を使った干し芋生産が行われている。自然を意識してビニールハウス内の写真を採用したのだと思うが、現実の部分も見えるようにしてはどうか。
- 検討する。これらの写真は写真連盟という写真クラブが春夏秋冬の東海村の景色を撮影したのから選択している。その中には大きな生産会社で干し芋を作っている様子もあるので、そちらの使用も検討する。
- 芋畑の写真の中に、冬の写真として突然雑木林が出てくるが違和感がないか。
- これは芋畑と冬の雑木林の対比を意識して選定したものである。乾燥芋の苗床に雑木林を利用したということがあって選定したが、解説がないとなかなか読み取れない。
- 林の前の道路も悪目立ちしているように思える。
- 写真を再検討する。
- 太古の真崎浦の BOX に設置する写真について、この写真では鉄塔が目立ちすぎていて太古の真崎浦は連想できないと考えられる。もっと遠景で撮ったほうがよいのではないか。
- 同じところについて、春夏秋冬の側面の写真は現在の様子を表すということによいと思うが、太古の真崎浦については古い写真でもよいのではないか。この写真ではまるで鉄塔の写真のようにも見える。現在の真崎浦の写真というよりも、時代を遡るような印象のあるものにしてはどうか。
- 風景を西の方向、つまりひたちなか市の方向に見た写真はないのか。なければ航空写真などを使うのはどうか。
- 航空写真を使ったほうがどういう形の湖だったのか分かりやすい。あるいは絵画資料で代替できないか。すぐ答えは出ないと思うので検討してほしい。
- 検討する。
- 昔はこの辺りまで真崎浦が広がっていたと感じられる岩場がある。須和間団地の下のほう、常磐線の下を見るとそこに行きつく。その写真をうまく撮って使えればよいのではないか。
- その岩場は、真崎浦に海が入った時の地層ではない。あの岩場は 1100~1300 万年前の地層が露出しているだけで、海があったということとは直接関係ないので、その方法は取れない。BOX 側面の左には、少しでも太古の真崎浦を想像できるように代表的な化石の写真を入れた。

●東海村史の口絵のカラー写真で真崎城から海のほうまでずっと撮った写真があるため、それを使ってはどうか。

○検討する。

●展示スペース自体は、利用者は写真を撮ってもよいのか。

○良いこととなっている。

●写真連盟と良い関係が築けていると思うので、利用者が撮った写真をどのように利用するか、著作権の問題が起こらないように対策を考えておくべきではないか。

○検討する。

●細かい修正点等はこれから各委員と協議の上進めるとして、おおよその方向性はこれで承認してよいか。

→承認。

②生き物マグネットについて

●壁面イラストに生き物マグネットを貼りつけるのか。

○そうである。壁面イラストは磁石がつけられる仕様になっており、そこにマグネットを貼り付ける。

●何を貼り付けるかは今後協議していくとして、方向性がこれでよいか確認したい。

●常に何枚ずつ貼るような形式になるのか。

○その時のテーマ、季節、観察会などの事業によって変わっていくと考えられるが、常に10枚から15枚程度貼る予定である。

●交流館で行う事業に合わせてその都度変わっていくということでよいのか。

○そうである。

●壁面イラストを見たい利用者はマグネットをはがしたりできるのか。

○そのあたりの運用方法を今後考えていきたい。

●壁面イラストはとてもよいが、色味が思ったよりも濃い。もう少し薄めの色味で抑えてもよいと思うがもう修正はきかないと思うので、この上に生き物マグネットを貼った時に生き物マグネットが目立つように工夫する必要がある。壁面イラストには緑色がかなり使われているので、四隅のマグネットは緑色でないほうがよい。

●壁面イラストが隠れていいのであったら、生き物マグネットの色を動植物などで変えてもよいのではないか。

●生き物マグネットのサイズはもっと小さくしていいのではないか。A4 サイズはかなり大きい。このサイズに固執する必要はない。

●特に植物や小動物はもっと小さくてよい。

●実際は近づいてみるので、トランプの大きさ程度でよい。

●今後シミュレーションを行って検討してほしい。

●以上の意見をもとにして今後修正していくということで、方向性としては承認したい。

→承認。

(3) 展示室2の展示制作物について

①各ストーリーの展示パネルについて

●文章については今後修正する可能性があるということで、パネル構成やイラストなどについて意見をいただきたい。

- 37ページの「火打ち石」表記の送り仮名を修正してほしい。また、36ページの解説の「わかったのだ」「判明した」などの文末の未統一が気になる。統一してほしい。
- 58ページから60ページにかけて、1100万年前と300万年前に深海の底「となる」と言ってしまうと、まるでもともとは東海村域が陸地だったというように聞こえる。もともとは陸地ではないので、よりよい表現があればご意見を伺いたい。
- 19ページ最初について、第一回の監修委員会でも議題に挙がったが、「青年」という言葉は今の言葉で解釈すると少年の対義としての青年である。縄文時代だと15歳くらいでも青年の可能性はある。若者などという言葉で言い換えたほうがいいのではないか。
- 前回の委員会でも青年という言葉が適しているかという指摘があったが、当時の言葉の意味合いでは特に考えていない。今回のストーリーでは、東北地方の女の子と若い男の子が会って恋愛をして子供を産むというストーリーになっていたのだから、青年という言葉がタイトルとしてふさわしいと考え、青年という言葉そのまま用いた。
- この展示はストーリー優先の展示になっている。展示本来のあり方はモノにストーリーを語る形式。しかしストーリーが先行しているため違和感が生じている。この違和感に対して何らかの対策は必要。
- 若者という言葉も少年という言葉もマッチしないので、青年というとさらっと聞こえるという印象はある。
- 言葉の問題は最後まで慎重な検討が必要。大きなコンセプトはこの段階ではもう変えられないので、コンセプトがきちんと伝わるかどうかは各委員と慎重な検討が必要。
- ストーリー性はとても良い。子供たちがみたときにストーリー性が感じられて、開かれたムラということが良く伝わると感じた。その中で、東海村という言葉について、どうしてここが東海村というのかはどこかに書いてあるのだろうか。子供たちがそう思ったときにどこかに書いてあると良いかと思っただけだが、どうか。
- 開かれたムラの展示の合併のところに石神村と村松村が合同で東海中学校を作り、その中学校の名前をとって東海村という名前となったことは書いてある。しかしなぜ東海中学校という名前になったかについては、村の公式見解があるので加えようと思う。
- 加筆する方向で検討してほしい。
- 古環境図は作り直すのか。
- この資料を基に描きなおす。
- 30ページの2番「水が見える地」という言い方に違和感がある。また、同じページの「80基の古墳を確認」という点について、主語がないのが気になる。東海村の中でということは伝わるとは思うが、なにか東海村の中でということがわかる言葉があると良い。31ページの「古環境と水辺の交流」について、「古環境に見る・・・」などの言い方が適切なのではないか。また、細かいところで恐縮だが、「人たち」「人達」など文末が統一されていない点があるので統一すべき。
- 翡翠という字にはルビが必要。
- イラストや参考にする図などについてはあまり意見がないようだが、いま議論になっていたところはこれからさらに調整が入ると思う。大雑把な話になるが、塩谷副委員長も指摘していた通りストーリー優先の展示ではあると思う。水辺のムラで人々の交流があったという前近代のストーリーは非常によく表されていると思うが、そのストーリーの結論として、その上に原子力の問題を位置づけてしまうというのは慎重に考えたほうが良い。国策の一部としてこの地に押し付けられたという面はあるわけで、これがこの展示の結論となってしまうと「地域にこのような特性を持った人たちがいたからこの地に原子力が来ることが決まった」という結論にな

りかねず、展示を見に来るいろんな人たちにとっては強い違和感が生じる展示となってしまうし、村の展示としては批判を浴びかねない。慎重な整理が必要である。

- 一週間で東海村に決まったという話もある。
- 一言で片づけられる結論ではないのは確かである。無理にこの部分に原子力を位置づける必要はないと考える。
- 承知した。しかし、原子力を受け入れてからの東海村の歴史が現在の村民の思う東海村の歴史であると思う。長く続いてきた東海村の歴史の中で、この原子力の歴史をどのように位置づけるかということについて、昔からこの場所は交流が盛んで、その一部として原子力が入ってきたということを表している。
- 少し乱暴な理論のように感じる。結論が先にありきではないのではないか。理由をそのようにそこに求めなければいけないというわけではないのではないか。大きな力が働いてこのような大きな施設ができるということは往々にしてある。
- 確かに国策として押し付けられた、東海村の意思は関係なく決まっていたという面はあるが、それを利用していったことも間違いないと考えている。
- 村民の中にも押し付けられたと考えている人とそうではないと考えている人とがいる。それを考えるとあまり触れないか、慎重に検討したほうが良い。
- 原子力は非常に村民の心を揺さぶる問題。合併したのは昭和30年ごろ、原子力の誘致が決まったのは昭和31~32年ごろ、私がちょうど中学3年から高校1年くらいのころである。村としては大変歓迎したようであったが、私の印象に残っているのは、現在の北海道の原子力廃棄物の永久処理のような感覚も結構あったと感じている。東海村はさつまいもと豚しか作れない非常に貧しい村だった。東海中学校は水戸の射爆場の兵舎の跡を持ってきていて、いまくらいの時期になるとすきま風が吹いてひどい校舎だった。要するに、石神村も村松村も経済的には恵まれないところだった。原子力を受け入れれば豊かになるという考え方があって、当時の村長は誘致活動を行った。東海村は交流の場だったから、という考え方もあるだろうが、当時の国策によって豊かになったというところが大きいというのが現実ではないか。前近代の交流の歴史などは誘致した当時村人はわからなかったわけで、豊かさを求めて原子力を受け入れたというところがあるのではないか。以上、感想である。
- 慎重な検討をお願いしたい。
- 近代の歴史について、原子力の話題に対して晴嵐荘の話題の扱いが小さすぎると感じるが、どうか。東海村が外から大変なものを受け入れたという点では、村民の意見を二分にした大きな論争があった話題として重要である。先日亡くなった照沼信邦さんのお父さんが決断をして受け入れたわけだが、信邦さんにお話を伺った際、結核の病人が少なくなって収入が少なくなった際に、自分たちは結核の病院を受け入れたという成功体験が村民の心にはあったとのことだった。晴嵐荘の問題はもう少し取り上げてほしいのではないか。
- 原子力、晴嵐荘の話題も併せて検討してほしい。

②年表について

- 59ページに文字のポイント数が入っているが、このポイント数で何文字くらい入るかということ、どのような図版が入るかを検討するということがよいか。また、近現代のところは最も文字数が多いが、年表のこの大きさに入るように事柄の数を設定したということによいのか。膨大な情報量をこの程度に縮小しないとパネルとして見てもらえないだろうということや文字数に制限をかけたということか。
- そのとおりである。

- 文字の大きさが31ポイントということだが、イメージとしてどのくらいなのか。パネルの大きさあたりの文字数を割り出した数字という意味で意味のある数字だとは思いますが、行間なども取りながらその中に納まるように作成をして、さらにそこにグラフィックを入れるという形で整理を行っていくということとそれぞれ担当の委員と調整を行っていくということによいか。これは時間的にどのくらい余裕があるのか。
 - 2月末くらいにはできていると良いので、1月末までに原稿が出来上がっていると良い。
 - それぞれの委員と現在調整中か。
 - まだである。
 - 調整を急いで進めてほしい。方向性としてはこれでよいか。
- 承認。

(4) 今後の進め方について

- 副委員長から指摘があったとおり、ストーリーを優先しすぎて情緒的すぎる文章にならないように気をつけてもらいたい。歴史は不変前提では成り立たないことを念頭に進めてもらいたい。全体を通して、ムラやヒトなどのカタカナ表記は専門家にとっては馴染みがあるものの小学生・中学生・高校生が見たときにどういう意図でカタカナ表記をしているかわからないと考えられる。丁寧な解説が必要である。